

「システム×デザイン思考」を実践に生かす

第8回 2016

SDM

System Design and Management

プロジェクト・デザイン

合宿研修

2016

10.19 水 → 10.21 金

11.17 木 → 11.19 土

計6日間

【後援団体】



一般社団法人 PMI日本支部



特定非営利活動法人
日本プロジェクトマネジメント協会



一般社団法人 IIBA日本支部



一般財団法人 エンジニアリング協会

【主催】

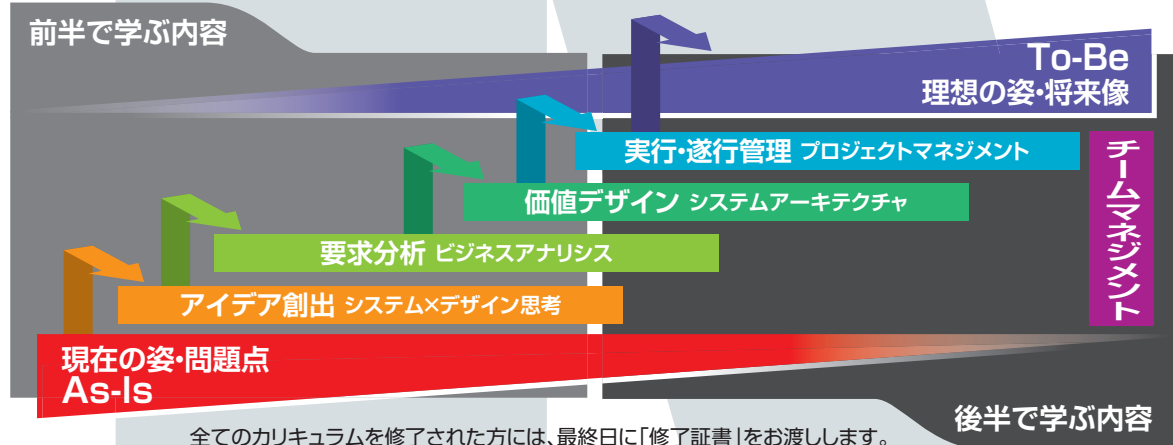


慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属
システムデザイン・マネジメント研究所マネジメントデザインセンター



特定非営利活動法人
ITコーディネータ協会

プロジェクト・デザイン合宿研修概念図



全てのカリキュラムを修了された方には、最終日に「修了証書」をお渡しします。
ご希望の方には最大49PDU(Education,T:39/L:5/S:5)の受講証明、
52時間上限13ポイントのITCポイント付与証明を発行します。
また、カテゴリー2Bで最大26.25CDU自己申請することができます。

成功のカギはプロジェクトのデザインにある

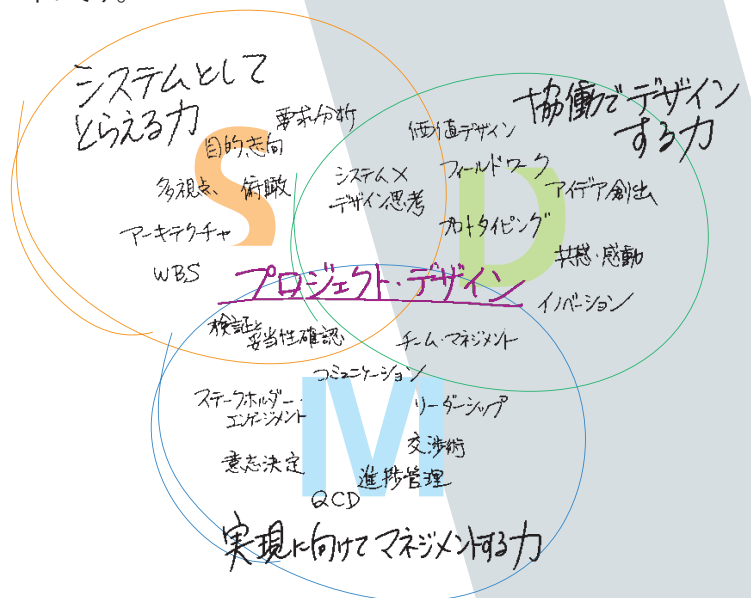
近年の地球規模でのインターネット環境の整備は急速なグローバル化をもたらしました。大量の情報に溢れる社会の中であって、私たち生活者のニーズは多様化、複雑化し、その変化も急速になっています。こうしたニーズの変化に合わせて、商品やサービスの導入におけるタイミングや価格、仕様設定など、企画段階での意思決定が、企業の利益を大きく左右する予測困難な時代に入っていることは、実務に携わっている皆様方にとって、肌で感じていらっしゃるのではないかと思います。

また、地域社会や国家にとっても、国民の求めるものが時代とともに変化することで、インフラ等の公共事業、福祉や医療等の社会制度、各種イベントの招致から開催まで、規模の大小を問わず複雑さは年々増してきており、それらの利害関係や意見の対立も激しくなっています。東京オリンピックで様々な問題が生じたことは記憶に新しいところではないでしょうか。これに加えて、少子高齢化、自然災害、外交問題や国際競争力の低迷など、様々な社会問題が状況をより複雑にしています。

これからのグローバル時代、ネットワーク時代では、従来型の縦割り分業よりも専門間の垣根を超えた横串の協働、トップダウンよりもボトムアップ、ピラミッド組織よりも逆三角のリーダーシップといったような発想の転換が必要です。それを可能にするのが、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科(慶應SDM)が、独自の研究をベースに開発した「システム×デザイン思考」です。

全体を多視点で俯瞰しつつ、個々の要素間のつながりや影響を見ていく「システム思考」と、マーケットや地域の現場を観察しながら、感性を重視してチームで協創していく「デザイン思考」の両方をバランスよく融合して、イノベティブな問題解決に導く思考方法です。これにプロジェクトマネジメントを組み合わせ、成功を目指すプロジェクト遂行手段として開発したのが、慶應SDMオリジナルの「プロジェクト・デザイン手法」であり、この合宿研修は、これを短期集中で教育し、実践的で戦略的なプロジェクト遂行能力を持つ次世代のプロジェクト・デザイナーを育成するためのプログラムです。

また、大学が主催するというニュートラルな環境のなかで、多種多様な業界・職種から集まった受講生たちが、お互いにワークショップを通じて異業種交流を行うことも、本研修のもうひとつの特徴です。本研修をネットワーク拡大の絶好の機会として、ご自身の、あるいは貴社・貴機関の人材育成の武器としてご活用いただければ幸いです。



セミナーコーディネーター
当麻 哲哉
Tetsuya Toma

〈プロフィール〉 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授、SDM研究所マネジメントデザインセンター代表、博士(システムデザイン・マネジメント学)、Project Management Professional (PMP)。
米国3M社の製品開発スペシャリストとして、20年間にわたりグローバル市場で数々のプロジェクト実績を積んだのち、2008年4月より大学教員。2009年にセミナーコーディネーターとして本合宿研修を立上げ、毎年内容をバージョンアップしながら今年で8回目を迎える。2010年よりPMI日本支部理事(研究担当)、2015年より科学技術振興機構「プログラムマネージャーの育成・活躍推進プログラム」メンターを兼務し現在に至る。

合宿研修スケジュール

ワークショップ
ケーススタディ

理論・コンセプト
行事

前半

10/19(水)

10/20(木)

10/21(金)

8:00 9:00	【前泊可能】	朝食勉強会 当麻・大塚 休憩	朝食勉強会 当麻・大塚 休憩 & チェックアウト
9:15 10:30	10:00~ 開講式・事務連絡 休憩	「プログラムデザインとは」 濱(CONCEPT) 休憩	「欲求連鎖分析」 当麻 休憩
10:45 12:00	研修イントロダクション 「研修概要および演習テーマ」大塚	「ビジネスモデル・キャンパス」 濱	「ステークホルダーの期待のマネジメント」 大塚
12:00 13:15	昼食会(自己紹介 & 集合写真)	昼食(各自)	昼食(各自)
13:15 14:30	「マネジメント・イノベーション・協創・幸せの関係」 前野 休憩	「戦略マップ」 濱 休憩	「対話による要求引き出し」 大塚 休憩
14:45 16:00	「ビジネスアナリシスとプロジェクトマネジメント」 大塚 休憩	「戦略マップ」 濱 休憩	「チームマネジメント」 大塚 休憩
16:15 17:30	「システムデザイン思考」 当麻	「プロジェクトへの展開」 濱	「リスクマネジメントと意思決定」 大塚
17:30 19:00	夕食(各自) & 自由時間	夕食(各自) & 自由時間	懇親会 ▶日吉キャンパス ファカルティ・ラウンジ 17:30-19:30
19:00 20:15	「アイデア創出」 当麻 休憩	「システムアーキテクチャとシステムライフサイクル」 白坂 休憩	【延泊可能】
20:30 21:45	「コンセプトセレクション」 当麻 休憩	「システムアーキテクチャとシステムライフサイクル」 白坂 休憩	
22:00	ネットワーキング(自由参加) ▶7階研修施設	ネットワーキング(自由参加) ▶7階研修施設	



講師プロフィール



前野 隆司
Takashi Maeno

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 委員長・教授 博士(工学)

キャノン(株)、慶應義塾大学理工学部を経て現職。専門

分野:人間システムデザイン(社会・コミュニティ、教育、地域活性化、農業、NPO、ヒューマンインタフェース、認知科学・哲学など)。著書:「思考脳力のつくり方」(角川新書)「幸せのメカニズム」(講談社)など多数。



大塚 有希子
Yukiko Otsuka

株式会社富士ゼロックス総合教育研究所専任講師

経済産業省、中小企業庁からの優秀案件採択、表彰など。金融機関人事部門、戦略企画部門を経て、現在は、

戦略・マネジメントに関するコンサルティング、制度設計および人材育成を行っている。SDM研究所のPMP®資格受験対策講座も担当。本研修において、チーフコーチを務める。



白坂 成功
Seiko Shirasaka

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 博士(システムデザイン・マネジメント学)、PMP

三菱電機株式会社では「このとりのり」(HTV:H-II Transfer

Vehicle)の開発でアビオニクスアーキテクチャ設計、システム安全設計をはじめ、全体インテグレーションを行う。フライトコントローラとして運用終了まで実施。「このとりのり」開発では多くの賞を受賞。2011年度より現職。専門分野は、システムズエンジニアリング、システム×デザイン思考。2015年12月より内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)プログラムマネージャー。

※スケジュール内容は変更される場合があります

後半

11/17(木)

11/18(金)

11/19(土)

【前泊可能】	朝食勉強会 当麻・大塚	朝食勉強会 当麻・大塚	8:00 9:00
	休憩	休憩 & チェックアウト	
「人間関係のスキル」 越膳	「21世紀のプロジェクトビジネス環境の 変化と国際競争力アップのポイント」高橋	「とことん考える習慣で本質把握力を鍛える」 米澤	9:15 10:30
休憩	休憩	休憩	
「人間関係のスキル」 越膳	「プロジェクトを成功に導く プロジェクト実施段階の強化ポイント」高橋	「自分事化で状況予見力を鍛える」 米澤	10:45 12:00
昼食(各自)	昼食(各自)	昼食(各自)	12:00 13:15
「グループ・プレゼンテーション」 大塚・当麻	「プロジェクト遂行のための 統合インフラ基盤の構築と活用」高橋	「多角的視点をもたらす発見」 米澤	13:15 14:30
休憩	休憩	休憩	
「グループ・プレゼンテーション」 大塚・当麻	「失敗事例から学ぶITプロジェクトの難しさ」 磯川	「予測困難な時代をより幸せに 生きるために必要な力」米澤	14:45 16:00
休憩	休憩	休憩	
「価値から始めるプロジェクト・デザイン」 萩本	「ITプロジェクト実務のポイント ～プラントと比較して」磯川・高橋	研修振り返り 当麻・大塚	16:15 17:30
夕食(各自) & 自由時間	夕食(各自) & 自由時間	修講式 17:30-19:30	17:30 19:00
「価値から始めるプロジェクト・デザイン」 萩本	「SDM手法によるビジネス開発事例紹介」 当麻	【延泊可能】	19:00 20:15
休憩	休憩		
「価値から始めるプロジェクト・デザイン」 萩本	「スキットによるプロトタイピング」 当麻		20:30 21:45
休憩	休憩		
ネットワーキング(自由参加) ▶7階研修施設	ネットワーキング(自由参加) ▶7階研修施設		22:00 ⋮



濱 久人
Hisato Hama

株式会社NTTデータユニバーシティ 研修事業部グループマネジャー IPA情報処理技術者試験委員、PMI教育委員会委員、PMAJ研修委員会委員、慶應義塾大学・産業技術大学院大学・東洋大学 非常勤講師

建設コンサルタントで都市計画、交通計画のプロジェクトを担当、その後パナソニック株式会社のシステムソリューション部門及び人材開発部門にてシステム開発部門のSE及びPMとして、各種プロジェクトを担当。現在は、NTTデータの研修機関である株式会社NTTデータユニバーシティに在籍。専門はプロジェクトマネジメント・事業戦略・人材育成など。現在は、事業戦略・プログラム&プロジェクトマネジメント・パーソナルスキル・技術者のキャリア形成などの研修を担当。



高橋 良之
Yoshikuni Takahashi

テクノエンジ代表
1964年日揮株式会社入社、国内・海外の石油精製、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクトをプロジェクトマネジャーとして

担当。エンジニアリング振興協会(当時)では、80年代にプロジェクトマネジメント部会委員を務める。現在は大学を含めたプロジェクトマネジメントの講座、研修会の講師、コンサルタントなどを行っている。



米澤 創一
Soichi Yonezawa

アクセンチュア株式会社 テクノロジーコンサルティング本部 SAPビジネスインテグレーショングループ 統括マネジング・ディレクター 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 非常勤講師

アクセンチュア株式会社にて品質管理責任者、プロジェクトマネジメントグループ統括等の役割を歴任。現在はテクノロジーコンサルティング本部における最大のグループの一つを統括し、組織運営、後進の育成を行う立場にある。また、テクノロジーコンサルティング本部の教育責任者、全世界のアクセンチュアにおけるSAP部隊のCapability Developmentのリードも務める。

キーワード解説

システム

本研修に登場する重要なキーワードを解説します。まずは「システム」です。この言葉を耳にするとコンピュータ関連かと思われるかもしれませんが、「目的を成し遂げるための相互に作用する要素を組み合わせたもの」と定義され、要素の足し算以上の価値をうみだすものがシステムです。複雑化する私たちの社会やビジネス環境は、まさに大規模なシステムです。複雑な問題を解決するためには、要素を個別に見るのではなく、対象を多視点から捉えたうえで、システム全体を俯瞰し、要素間の関係性を分析して構造化・可視化をしていく必要があります。このようなアプローチを「システム思考」と呼びます。

マネジメント

システム(S)、デザイン(D)、マネジメント(M)の融合をあらゆる分野に適用し、次世代の社会を創りあげるリーダーの輩出を目指した慶應SDMでは、アイデアを実現するための「マネジメント」能力をとて重視しています。「システム×デザイン思考」で提案されたアイデアがどんなに良いものでも、実現に向けていかなければ意味がありません。英語の「Manage」という単語には「上手に扱う、切り盛りする、どうにかしてする」というニュアンスがあるように、上から目線の管理ではなく、現場に入り込んで知恵を駆使して、目標を達成するためのスキルなのです。

ステークホルダー

プロジェクトの実施により何らかの利害を受ける個人や組織を「ステークホルダー」と呼びます。プロジェクトから共通の利益を得るプロジェクト・マネージャーやメンバー、顧客、ユーザー等の直接的な関係者だけでなく、プロジェクトの反対者や一般大衆、官公庁などの外部組織もステークホルダーです。本研修では、プロジェクトのビジョン策定に重要な、直接顧客が価値を提供する間接顧客(顧客の顧客)のニーズの理解について学ぶとともに、内部・外部のステークホルダーの様々な期待をマネジメントし、トレードオフを考慮した意思決定の手法も学んでいきます。

システム×デザイン思考

「デザイン思考」とは、観察・発想・試作を繰り返してチームで協創する活動であり、感性などの主観を重視した思考方法になります。私たち慶應SDMでは、客観的な「システム思考」と、主観的な「デザイン思考」を融合することでイノベーションを生み出すための独自の思考方法を「システム×デザイン思考」として提唱しており、本研修の中でも最も重要かつ特徴的なスキルと位置付けています。ふたつの思考方法をバランスよく融合した日本発、慶應SDMオリジナルの「システム×デザイン思考」をぜひ本研修で習得してください。

プロジェクトとプログラム

反復でない個別の成果物(製品、サービス、成果など)を創り出すために実施する有期性のある業務を「プロジェクト」と定義しています。一方、複数のプロジェクトを有機的に組み合わせて調和のとれた方法でマネジメントすることにより、個々のものからは得られないベネフィットを得る活動を「プログラム」といいます。そしてこれらを目指に向かって実現していくために、要求を分析して戦略を立て、目標達成を目指して、知識とツール、技法を駆使していくのが、「プロジェクトマネジメント」および「プログラムマネジメント」です。

ビジネスアナリシス

プロジェクトで創造する成果物のスコープを分析する「ビジネスアナリシス」の作業は、要求分析と呼ばれることもありますが、単に要求を聞くだけでなく、業務の問題を解決する方法(ソリューション)を分析することが大切です。スコープのブレを防ぐためには、ステークホルダーの要求や具体的なソリューションの要求を、組織戦略と結びつけることが重要となってきます。この研修では、組織としてどのような価値創造を行うのか、具体的な要求をそれとどのように結びつけるのかを学び、ビジネスアナリシス等の標準プロセスと結び付けていきます。



越膳 哲哉

Tetsuya Echizen

株式会社 Jecc 専務取締役
前職の医療機器メーカー時代、ISO認証取得プロジェクトに従事し、社内における品質保証体系の整備および運用・風土改革のキャリアを持つ。現在は専務取締役としてクライアント企業の

経営変革支援を担当できるコンサルタント(営業・インストラクター)の統括・全社組織運営の役割を行う立場にある。組織の人間の側面に焦点を当て、デザインされた組織が目的遂行に向かうには、どのような人財が必要なのかを追求し、理論の人間観に基づくマネジメント力の強化をライフワークとしている。2012年より、SDM研究科において、組織内コミュニケーションスキル向上、組織内人間関係構築スキルの講義に携わる。近年は組織全体の変革に向けて、組織文化の革新に精力を注いでいる。

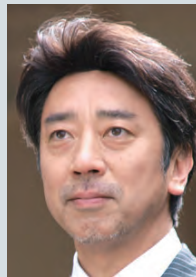


磯川 昌弘

Masahiro Isokawa

クレジット・エス・アイ代表、PMP、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科非常勤講師、IT見える化協会会員

1978年(株)日本ビジネスコンサルタント(現日立システムズ)入社。約40年にわたり金融業界の数々のシステム構築・アーキテクチャ設計、プロジェクトマネジメント管理体系の整備に従事した。現在はノンバンク系システムのITコンサルタントとして対応中。2014年より慶應SDMにて、ITにおけるプロジェクトマネジメントの実務面の講義を担当。また2015年よりITプロジェクトの「見える化」ノウハウの取りまとめを推進中。



萩本 順三

Junzo Hagimoto

株式会社 匠 Business Place 代表取締役 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 非常勤講師

IT企業にて、オブジェクト指向方法論(Drop)の開発や、分散オブジェクト技術(HORB)の開発リーダーを務め、2000年、エンジニアリングをビジネスに活かす会社として豆蔵を仲間と設立。副社長、CTO、取締役、プロフェッショナルフェローなどを務め、ビジネスとITを繋げる手法、要求開発方法論(Openthology)の初版バージョン0.6を策定。総務省行政管理局技術顧問、内閣官房IT室GPMO補佐官として政府のIT化戦略・実施マネジメント(e-japan)に3年間携わったのち、2009年、IT企業、ユーザ企業の改革を支援するために匠ビジネスプレイス(匠BP)を設立。要求開発方法論の発展形となる匠メソッドを作成し、ビジネス企画・製品企画・業務改革等でコンサルティング・教育を行う。

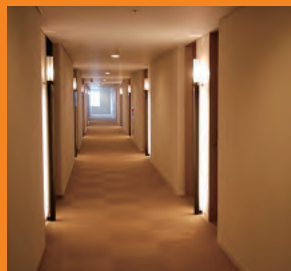
IT企業にて、オブジェクト指向方法論(Drop)の開発や、分散オブジェクト技術(HORB)の開発リーダーを務め、2000年、エンジニアリングをビジネスに活かす会社として豆蔵を仲間と設立。副社長、CTO、取締役、プロフェッショナルフェローなどを務め、ビジネスとITを繋げる手法、要求開発方法論(Openthology)の初版バージョン0.6を策定。総務省行政管理局技術顧問、内閣官房IT室GPMO補佐官として政府のIT化戦略・実施マネジメント(e-japan)に3年間携わったのち、2009年、IT企業、ユーザ企業の改革を支援するために匠ビジネスプレイス(匠BP)を設立。要求開発方法論の発展形となる匠メソッドを作成し、ビジネス企画・製品企画・業務改革等でコンサルティング・教育を行う。

第8回「システム×デザイン思考」を実践に生かす プロジェクト・デザイン合宿研修 募集要項

期 日：2016年10月19日(水)～21日(金)、11月17日(木)～19日(土)
会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス協生館
募集定員：25名
対 象：プロジェクトをイノベティブに企画・遂行するリーダーを目指す方
受 講 料：300,000円(税別) ※宿泊費は別途お納めいただきます
申込方法：WEBサイトよりお申込ください。

協生館宿泊施設

合宿形式セミナーのため、10月19日(水)、20日(木)および11月17日(木)、18日(金)は、原則として協生館内の研修宿泊施設へ宿泊していただきます。

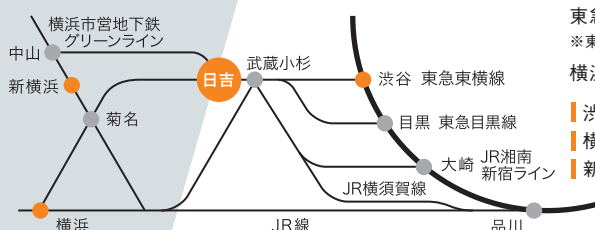


協生館

システムデザイン・マネジメント研究所 (SDM研究所) とは?

SDM研究所は、企業をはじめ社会のあらゆる組織におけるシステムデザイン・マネジメントの理解とマネジメント能力の向上のため先端的研究・教育を行い、広く社会の発展に寄与することを目的として設立された研究科附属の研究所です。公開講座・講演会・セミナー等の開催ならびに講師派遣、システムデザイン・マネジメントに関する研究調査、外部機関との研究プロジェクトの推進、国際機関・世界各地の大学および研究機関との協力・提携ならびに交流などの事業を行っています。

交通アクセス



東急東横線、東急目黒線
※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。

横浜市営地下鉄グリーンライン

- 渋谷～日吉：急行18分(通勤特急16分)
- 横浜～日吉：急行12分(通勤特急10分)
- 新横浜～菊名～日吉：14分

日吉駅直結

お問合せ先

慶應義塾大学
日吉学生部 SDM担当



〒223-8526 横浜市港北区日吉4-1-1 協生館2F
Tel: 045-564-2518 Email: sdm@info.keio.ac.jp

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>